

自主防災活動で 災害に強いまちづくり



1. 防災・減災の要「自助」・「共助」

災害が起きたときに必要な助けや支援には、「自助」・「共助」・「公助」の3つがあります。大震災や大水害などさまざまな災害から自分や家族の命を守るためには、普段から災害に備え、自らも地域もまちも十分な対策を講じておかねばなりません。

自助とは

「自らの身は自分で守る」これが防災の基本です。自分の手で自分や家族を助けるための備えと行動を「自助」と呼びます。

共助とは

「自分たちの住んでいる地域は自分たちで守る」これが地域を守る最も効果的な方法です。災害時に最も頼りになるのは隣近所の人たちです。近隣の皆さんと協力して地域を守るための備えと行動を「共助」と呼びます。

公助とは

町をはじめ警察・消防・県・国といった機関の応急対策活動を「公助」と呼びます。

大規模災害が発生するとあまりにも救助者が多い上に交通の障害などにより、行政による公助活動は著しく低下してしまいます。災害時の予断を許さない状況では、自分の身は自分で守る＝「自助」、地域や身近にいる人同士が助け合う＝「共助」こそが、災害による被害を少なくする（減災）ための大きな力となります。そして、災害時の公助のためには、自治会単位などで組織される自主防災組織

の役割が大切です。
自主防災組織とは、災害時はもちろん、日ごろから地域の皆さんが一緒になって防災活動に取り組むための組織のことをいいます。
災害に備え、地域住民が連携して地域の被害を最小限に抑えることが自主防災組織の役割です。あなたとあなたの地域を守るために自主防災活動に積極的に参加し、災害に強いまちをつくりあげましょう。

地域で共に協力し合って取り組む

自主防災組織





2. 日ごろからの備え

まず、どこにどんな危険があるか、どんな人が住んでいるか、地域についてよく知ることが防災の基本です。

災害時の地域の連携をどうする？

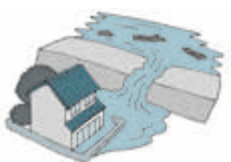
災害が発生したら、まずは「避難」することから始まります。避難するのに支援を必要とする人々（介護を必要とする人、身体・知的障がい者、乳幼児、妊産婦など）、いわゆる災害時要援護者を安全に避難させるために、自主防災組織としてどのように支援するか具体的に検討する必要があります。そのために、民生委員児童委員や福祉にかかわる人たちとも連携し、日ごろから見守る活動も大切です。

災害対策や訓練内容をどうする？

個々がいまままま避難すると危険も伴い、安否確認もできにくくなることが考えられます。

安全な「避難」のためには、避難経路が安全であることが重要です。また地震と風水害では、避難経路をそれぞれに検討することが必要な場合もあります。

あなたの家や地域の地形や建物、自然環境、危険個所などを把握することが大切です。その情報を基に家庭や地域として、被害を少なくするための対策や訓練を検討できます。



自主防災組織で日ごろから取り組むこと



1 防災知識の広報・啓発

①地域ぐるみで防災意識を高めよう

- 地域の行事やイベント（防災運動会・ゲームなど）の中で、防災を意識付ける機会をつくり、みんなで話し合う
- 地域における過去の災害事例、災害体験をまとめた広報紙の発行
- 防災に関するチラシやパンフレットなどの作成や配布

②家庭内の安全対策を万全に

- 耐震診断などの建物の安全策を講じる
- 門柱やブロック塀などの点検と改善
- 消火器や火気使用設備器具などの点検
- 防災用品、食糧・飲料水など非常用物資の準備

2 地域の災害危険個所の把握

- 地域の危険個所などの現状を正しく把握する
- 危険個所などを防災カルテや防災マップとしてまとめる

3 防災訓練

- 特定の災害だけでなく、地域の実情に合わせた訓練内容とする
- 災害時要援護者にも配慮した効果的な訓練内容とする

地形や建物や人	自然や	●大きな川、小川、用水路、排水路など
		●池・沼など
危険な所	建物や人	●避難所や集合場所など地域防災のために役に立つ施設
		●災害時に手助けが必要な人がいる場所
地震のとき		●落下したり倒れたりしたときに危険となる建物
		●地震発生時に通行止めになりそうな場所
風水害のとき		●がけ崩れなどが起こりそうな場所
		●建物や橋などの倒壊被害が想定される場所
		●火災が発生したとき延焼拡大が想定される場所
		●浸水しそうな場所
		●増水・洪水しそうな川
		●建物や橋などが流されるなどの被害が想定される場所
		●土砂崩れが起こりそうな場所

「日常の活動がいざというときに役立つ」ことから、継続的に取り組むことが大切です。



3. 災害発生!

災害が発生したら、それぞれの分野の役割を機能的に果たし、地域で協力し合って被害を最小限に抑えましょう。

救出活動

負傷者や倒壊家屋の下敷きになった人たちの救出・救助活動



情報の収集

町や消防署などの機関と連絡を取り合い、正しい情報を住民に伝達する



災害時の 自主防災組織の役割

災害発生時は、情報を収集して住民に迅速に伝達、初期消火、被災者の救出救助、避難誘導、避難所の運営といった非常に重要な役割を担います。

初期消火活動

消火器、バケツリレーなどによる初期消火活動



医療救護活動

負傷者の応急手当、応急救護所への搬送など



避難誘導・点呼

住民などの安否確認、災害時要援護者への援助、避難所への避難誘導



給食・給水活動

炊き出し・物資配分の協力



巡察活動

被災地巡察、警戒、危険個所の広報



その他の活動

家屋や水路などの応急修理、ごみ・ガレキ処理



地域でなくてはできないこと、地域だからできることを訓練で積み重ね、
日ごろから災害に備えた取り組みをしましょう。

平成23年度

住民の皆さんと共に

竜王町総合防災訓練を実施します

9/4日

本年度の竜王町総合防災訓練は、「まず避難」することで被害を少なくできるため、「避難訓練」を主として実施します。各自治区の自主防災組織を中心に災害時要援護者の避難支援、安否確認、避難ルート・避難所設営などの点検を通して防災意識の高揚を図ります。

訓練日時

平成23年9月4日①

朝6時から午前9時30分まで ※午前7時に避難勧告発令

訓練場所（訓練対象地区）

町内各地区および広域避難所（8カ所）

第2次広域避難所	対象地区
①道の駅「竜王かがみの里」	松陽台・西横関・鏡
②竜王西小学校	山面・美松台・西川・須恵 鵜川・七里・希望が丘
③グリーン近江農協竜王カントリー	弓削・信濃
④竜王中学校	橋本・庄・川上・林
⑤竜王小学校	島・駕輿丁・綾戸・川守 岩井・田中
⑥竜王町公民館	薬師・小口・岡屋
⑦竜王町総合運動公園	松が丘・山中・さくら団地
⑧農村環境改善センター	西出・東出・新村・西山

主な訓練内容

- 各自治会（地域自主防災組織）における訓練

主な訓練 ■ 避難訓練、災害時要援護者支援訓練、安否確認訓練、情報伝達訓練、第1次避難所開設訓練ほか

- 竜王町における訓練

主な訓練 ■ 第1次（地域）避難所から第2次（広域）避難所への避難訓練ほか

いざというときのため
訓練へ参加し、
自信を深めましょう！



訓練想定

台風●号の接近に伴って、西日本に停滞していた前線の活動が活発になり、東海から四国にかけての広い範囲で長時間にわたる豪雨となった。滋賀県では前日から断続的な大雨となり、降り始めからの総雨量は350ミリに達した。竜王町では、町内の平地河川が増水によりはらんし、交通にも支障が出ている。祖父川では、はんらん危険水位に近づき堤防に亀裂箇所が確認されている。日野川でも水位が上昇し続け、決壊の恐れがある。また、町内各地で前日から降り続けている雨により地盤が緩み、土砂災害の発生やため池では堤体が決壊する危険がある。このため、竜王町では災害警戒本部を設置し、竜王町長は町民の生命を守るため、避難準備情報の発令に続き「避難勧告」を発令。各地区では、自主防災組織により被害状況の確認、家族・住民の安否確認、災害時要援護者の避難支援とともに第1次避難を実施する。

家庭の防災対策を チェック

各家庭でも、災害時の避難場所の確認や非常持出袋の点検をしてみましょう。また、地震の場合に家具の転倒を防止するため、家具を固定しましょう。

